

採点上の注意

【問題全般について】

- 中間点は、問五(イ)以外には設けないこと。
- 疑問点は複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。
- 誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）の判断については、校内で統一すること。

【中間点のある記述問題について】

- 正答例以外であっても、与えられた条件をすべて満たし、問題の趣旨に即した文ならば、正答として六点を与える。
- 内容については、中間点を設けないこと。
- 誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）については、その数にかかわらず二点減点とする。
- 表現に問題があり、それによって明らかに問題の趣旨から外れている、内容を読みとることができない等の場合は、誤答とする。ただし、許容できると判断した場合は、その数にかかわらず二点減点とする。表現の問題については、複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。
- 中間点は、誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）がある場合と、表現に問題がある場合の減点以外は設けないこと。したがって、中間点は四点または二点となる。
- 指定語句がある場合、その語句が含まれていない解答は誤答とする。

○ 問五(イ)について

得点項目A 内容については、次の二点に触れていること。

- (あ) 「不要な服の購入を控える」こと。
- (い) 「安易に手放さないよう心がける」こと。

〈正答例〉

消費者には

必要かどうか吟味して購入し、安易に処分しないようにする
20
ことが求められていると言えます。 30

消費者には

不要なものは購入せず、買った衣類は大切に
20
着用してすぐ手放さない
30
ことが求められていると言えます。 30

消費者には

不要な服の購入を控えるとともに、手放す
20
量も減らしていく
30
ことが求められていると言えます。 30